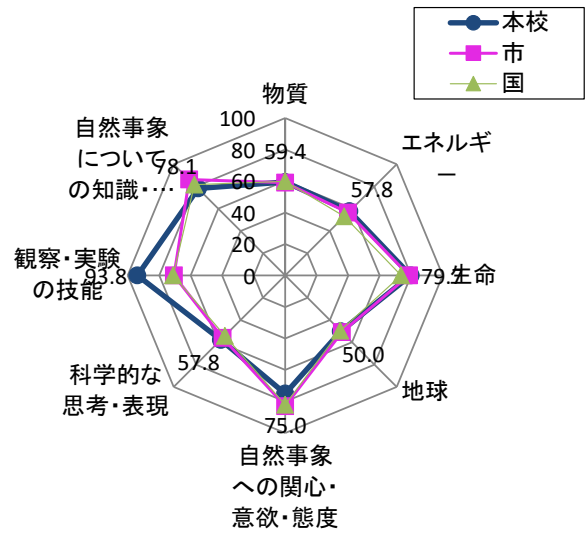


宇都宮市立瑞穂野北小学校第6学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物質	59.4	59.0	59.8
	エネルギー	57.8	56.4	53.1
	生命	79.7	78.6	73.6
	地球	50.0	50.9	49.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	75.0	82.9	82.1
	科学的な思考・表現	57.8	56.1	54.1
	観察・実験の技能	93.8	70.6	71.1
	自然事象についての知識・理解	78.1	86.2	81.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質	平均正答率は、全国平均と同程度である。 ○ろ過の適切な操作方法について理解している。 ●食塩水を熱したときの水の蒸発について、実験を通して導き出す結論を書く問題の正答率は12.5%であり、全国平均を23ポイント下回っている。学習内容の定着だけではなく、記述力にも問題があると言える。	・実験の過程や結果について、自分の言葉で説明する機会を作り、知識面だけでなく、記述する力も育成していく。
エネルギー	平均正答率は、全国平均を上回っている。 ○乾電池のつなぎ方や、光電池の適切な向きについて理解している。 ●回路を流れる電流の向きと大きさについて、実験結果から考え直した内容を選ぶ問題の正答率が低い。	・観察や実験の結果をもとに、「事実」と「結果の解釈」の両方を示すことを指導していく。
生命	平均正答率は、全国平均を上回っている。 ○人の腕が曲がる仕組みについて理解している。 ●「関節」という言葉が正しく書けていない。	・学習内容の定着については、時間が経つと忘れてしまう傾向が見られる。復習の時間をとったり、まとめのプリントを活用したりするなどして、既習の学習内容を振り返る時間をとる。
地球	平均正答率は、全国平均と同程度である。 ○上流側の雲の様子や雨の降っている所と下流側の川の水位の変化から、上流側の天気と下流側の水位を関連付けて考える問題の正答率が高い。 ●一度に流す水の量と地面に立てた棒の様子との変化から、大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方について、記述する問題の正答率が低い。	・観察や実験のデータを分析し、根拠や理由を示しながら、自分の考えを記述できるよう指導していく。